



# みなみ風

学校教育目標 人間力を高め、未来にはばたく児童生徒の育成

合言葉 私たちの最上位目標は、子どもの幸せ

学園だより 令和5年10月3日 第16号 みなみ学園義務教育学校

## 9/29 (金) 3・4年生が日立シビックセンターとかみね動物園へ出かけました



素晴らしい秋晴れの9月29日(金)、3・4年生を乗せたバスは、まず、日立シビックセンターへ。令和3年から愛称「サクリエ」となった科学館は、見るだけではなく、遊んで楽しめる体験型の展示物が中心です。「はっけんフィールド」や「ためしてハニカム」、「たんきゅうガレージ」などで、子どもたちは楽しく学ぶことができました。お昼には、シビックセンターの屋上で、楽しみにしていたお弁当を食べました。この屋上からは海が見え、大変気持ちよく食事をすることができました。昼食の後は、かみね動物園へ。まずは、ゾウのお出迎えを受け、班ごとに記念写真をパチリ。それから、グループごとに見学しました。黄色いニシキヘビやヤマアラシなどに驚いたり、ジャガーやチーターのカッコよさに歓声を上げたり、サルのかわいらしい動きに笑顔になったり、子どもたちは、動物園の楽しさを堪能することができました。1歳違いとはいえ、4年生はさすがに「お兄さん・お姉さん」らしい行動をすることができ、3年生の様子を気かけながらリーダーシップを発揮していたところが素晴らしかったです。

## 9/26 (火) 6年生が税金について学びました

本校では、毎年6年生と9年生が租税教室を行い、税金について学んでいます。今年度も、みなみ学園サポーターズ会長も務めている税理士の見安貴志さんから、「子どもたちが学校に通うために、毎年多くの税金が使われている」など、私たちの生活に関わる税の意義や役割などについて、分かりやすく教えていただきました。また、1億円が入ったジュラルミンケースの重さを味わい、子どもたちは、その重さにとっても驚いていました。

あと6年で「成人」を迎える6年生が、税金の仕組みに興味をもてたことがとてもよかったです。



## 9/27 (水) 1年生で家庭教育学級が開かれました

災害から身を守るためには、「防災」と「減災」があるそうです。1年生が家庭教育学級で、いばらきコープ組合から講師をお呼びして「減災教室」を実施しました。当日は、たくさんの保護者の方に参加いただきました。「減災」とは、災害が起きてしまったときに二次被害を防ぐために、あらかじめ行う取組のことです。当日は、地震が発生して避難するときに割れたガラスや壊れた家具を踏んで足を怪我しないように、新聞紙で簡易スリッパを作りました。講師の先生方に教えていただきながら、親子で協力して作る姿が見られました。「備えあれば患いなし」ですね。



## 9/28 (木) 5年生が潤沼へ自然観察に出かけました

セキスイ自然塾で体験した「二反田川」での生物や水質の調査をもとに、7月には「潤沼川」での観察、そして今回は潤沼川が直結している汽水湖（淡水と海水が混じった湖）である「潤沼」の観察に出かけてきました。ラムサール条約に登録されている潤沼湖畔にある施設「いこいの村潤沼」のインフォメーションプラザでの動画視聴や野鳥の写真の見学をしたとともに、敷地の中に作られた「ビオトープ」では、汽水域に生息するベンケイガニなどの生物を観察することができました。潤沼湖畔では、シジミ漁の様子や、ボラが水面をはねている様子、カワウなどの野鳥も観察することができました。



## 9/28 (木) 6年生がセキスイハイム工場を見学しました

総合的な学習の時間として、北吉原にあるセキスイハイム工業株式会社関東事業所で工場見学を行いました。安全のために、ヘルメットとゴーグルを着けて工場内に入りました。工場の中はとても広く、「壁」や「床」がコンベアの上を流れながら組み立てられ、「部屋」となって塗装までされていました。「屋根」までも工場の中で作られているのには、みんな驚いていました。一軒の家のすべての部屋や屋根が、たったの3日間で出来上がってしまうと聞いて、子どもたちは、さらに驚いていました。



## 今日の「特別の教科 道徳」

国語、算数・数学などと並んで、学校教育で重要な役割を担ってきたのが「道徳」です。道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標にしてきました。小学校では2018年度から、中学校では2019年度から「道徳」は「特別の教科 道徳」となり、「自分ならどうするか」を正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する道徳」という新たな視点のもと、毎週1時間実施されています。この日は、8年生が「ライバル～真の友情とは？～」について考えました。水泳部のライバルが病気で入院するシチュエーション。「ライバルがいなくなってほっとした」感情と、「ライバルがいなくなったことをうれしく思っている自分が情けない」という感情について、子どもたちは、自分事として考え、自分の考えを書いたり、発表したりすることができました。

決まった答えのない道徳上の問題について、子どもたちが自らの考えを深め、仲間との交流を通して、自分なりの価値観を形成して行ってほしいと思います。

(文責：野尻)

一つ一つのハートが一人一人の心情を表しています

